

川 柳

【小学1年生・2年生】

特 選 けしごむもうたにあわせてころがった

城陽小学校2年 内崎 陽登

(評) 上五の「けしごむも」の「も」は、自分といつしよにうたにあわせているのが

わかる大切な一字です。「は」や「が」ではちがう意味になってしまいます。けし
ごむがリズムカルにころがるようすを、みのがしていないのがよい。みんなとあ
わせてうたったよろこびを、けしごむにたとえている句です。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 コンクールピアノのひびきとどくかな

城西小学校2年 中村 友乃

(評) 下五の「とどくかな」のだれにとどかせたいのかがわかりません。しかし、そ

れでよいのです。十七音ではそこまで書けないし、だれであるのかなとそうぞう
がふくらみます。家族、遠くの親せき、あるいは友だちかなと。また、「とどかせ
たいのはなぜかな」とかなどのイメージをふくらませる句です。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

佳作 あしたはねどようびだけどまたあした

城南小学校1年 石橋 明莉

佳作 あまがえるあめがふるまでひまだなあ

城東小学校1年 松尾 泰慈

入 選 ほしとつきよるはひかるよすてきだね

城東小学校1年 江口 果凜

入 選 きょうりゆうにどこでもドアでこんにちは

城陽小学校2年 寺村 元

【小学3年生・4年生】

特選 なでしこが道のはしっこにおいてある

城西小学校3年 村田 帆斗

(評) それがどうした、とたいていの人は思う。だけど、思いもしないことに出くわ

すと、しぜんと笑えてくることがある。どうしておかしいのかよく分からないけれど、なにかおもしろい。それを句にしてしまうのが良い。

なでしこが道においてある。おもしろい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特選 あきがきたあきのくうきはあきのあじ

城北小学校4年 柴田 透羽

(評) あき、あき、あきのくりかえしもよいが、くうきに味があることに気づいたの

がすばらしい。さあ、あきのくうきはどんな味がするのか。すんだ空の水の味か、かきの実のあまさか。枯葉のさびしい味か。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 公園にあそびに行っておいかける

城北小学校3年 小山 湖華

(評) なにおいかけているのかを書いていないのが良い。この句をよんだ人は考える。おにごっこをしているのか、サッカーをしているのか、トンボをおいかけているのか。ブランコにゆれて夢をみているのか、と。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 そらをみてつなをひけひけオーエスオー

稲枝東小学校3年 横田 侑希

(評) つな引きのようすがとてもまぐえがかれている。空がみえるほど体をそらし、引け引けと力をあわせるかけ声がきこえてくる。この句を読んでいると、読んでいる人もみんな、おなかに力が入ってくる。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 花畑いろんな色がつまってる

城北小学校3年 堀尾 憩

(評) だから美しいといたいのだろうが。花畑だからいろんな花があり、一つの花もいくつもの色でさき、一つの色にもそれぞれがもつ色合いというものがある。それなのに、さんねんだなあ、くろい花はないんだなあということが書いてあるようにも思えてくる。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 夏のけしきあつとゆうまに秋のけしき

城北小学校4年 山木 斗湧

(評)

日本には四季がある。それぞれの季節が過ぎるとそれまでが何だったのかというようにけしきが変わる。陰かげを作っていた葉が落ち、セミの声がスズムシの歌にかわる。そのあいまがある。あつというまという、昼まは暑く夕ぐれは寒い日がある。その短い季節のあいまも楽しめるひとになつてほしい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)



佳作 おいしいなごくぐくとのもぎゆうにゆうは

城北小学校3年 前川 将輝

佳作 あめがふるおうちのなかはしずかだな

城西小学校3年 寺澤 明里

佳作 ゆうゆうとつばさを広げとんでいる

稲枝東小学校3年 森 映太

佳作 雪のようにしずかに落ちてく紅葉の葉

城西小学校4年 大野 寛人

佳作 おおぞらにとんでけぼくの紙ひこうき

稲枝東小学校3年 久保田 溪五

佳作 あきのよるよるはながいよひまなんだ

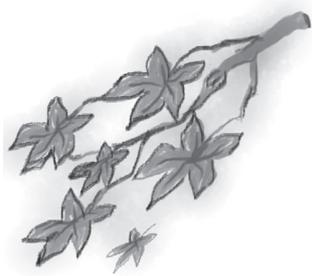
城西小学校3年 松田 煌生

佳 作 あこがれのしょうせつさっかになりたいな

若葉小学校4年 権代 優紗

佳 作 おとうとはいいとこどりでずるいんだ

城南小学校3年 國安 祐衣



入 選 あきのかぜつめたいかぜがきもちいい

城北小学校4年 金井 星風

入 選 プロやきゆう雨にながれてさあたいへん

平田小学校4年 山田 光平

入 選 あきのあさはっぱゆらゆらおどってる

城西小学校3年 西林 煌晟

入 選 おじいちゃんいっしょにやいたおもちゃき

平田小学校3年 有本 楓

入 選 あきがきたもみじのはっぱわらってる

城西小学校3年 三宅 悠太

入 選 はっぴきてたのしく踊ったソーランを

城陽小学校3年 松本 耀子

入 選 ふゆやすみはやくこないかまだあきだ

城西小学校3年 加藤 響平

入 選 ぬいぐるみおしゃべりすればたのしいな

若葉小学校4年 洞田 望宙

入 選 ともだちとやっていいことわるいこと

平田小学校3年 砂川 凜

入 選 ジュージューとお肉がやける音がする

稲枝東小学校3年 石塚 勇人

【小学5年生・6年生】

特 選 母ねんざ今日から私母代わり

河瀬小学校5年 中川 碧彩

(評) 五年生がお母さんの代わりをする体験をすなおに表したやさしい句です。勉強をしながらお母さんの代わりは、なかなか出来るものではありません。そんな中で、川柳づくりを頑張ってくれました。欲を言うところを「私」のところを「ひらがな」にするときらによい句になります。

(彦根文芸協会 浅野 忍)



準特選 一年生ドキドキしてたランドセル

平田小学校6年 柴田 紗希

(評)

作者の体験や集団登校の時の六年生としての気づかいをうまく表現しています。心に込めたことを「ランドセル」を例えに使い、うまく表現していますね。どんな句作りをして、川柳をたのしんでください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

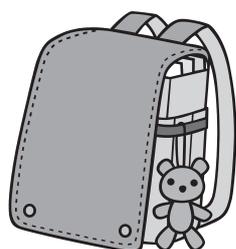
準特選 山の川もみじを乗せてどこへ行く

城北小学校5年 松井 優大

(評)

観察力がすばらしい。水の流れにのり、もみじはどこへ行くのだろう。素直に思ったことを表せています。「どこへ行く」のように読む人に想像してもらおうのは、うまい表現です。どんどん川柳を楽しんでください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)



佳作 ぼう言は心の糸を切るはさみ

平田小学校5年 伊藤 遥菜

佳作 さつまいも今年をたべてはらいっぱい

城北小学校5年 北川 丈

入選 ノートには初めは書くよキレイな字

平田小学校6年 清水 健壺

入選 しよくよくはぜんぜんないけどあきがきた

城北小学校5年 杉本 翔星

【中学生】

特 選 人と人違うからこそすばらしい

南中学校1年 荒川 陽彩

(評) 人はそれぞれに個性があります。顔形が違うように、思いや望みも異なっていて当然です。とかく、人間は批評をするものです。正義感を持って、楽しい中学生生活を続けてください。将来、きっと社会に役に立つことでしょう。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

特 選 たまにはね勉強わすれて遊びたい

南中学校1年 洞田 珠宙

(評) 中学生になつてからは、勉強や部活が忙しい。塾も待っている。ゆつくりと好きなことをやってみよう。出かけた。そんなことを思いながら、一日が過ぎてゆく。これで良いのだろうか、自分に問いかける素直な気持ちが伝わってくる。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 可能性挑戦すればむげんだい

稲枝中学校1年 竹内 花音

(評) 大きく出ましたね。必ずしもすべてそうなるとは限らない。でも、一つの目標を持ち、夢に向かって進むことは立派です。少しずつ焦らず一歩一歩前進してゆきましょう。いつか、無限大になることを祈ります。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 せきがえはウキウキするね同じ席

鳥居本中学校1年 武田 妃羅

(評) 席替えが始まった。皆んな真剣な眼差し。希望の席を見詰めてる。次々と順番に決まってゆく。まだ決まらない、今度こそあの席に行きたい。先生の話や、字がはっきりと分かる。やっと決まった。残念！なんだ前と同じ席だった。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 数学は大嫌いだよほんとだよ

南中学校1年 林 陽香

(評) 人は、得手不得手があるものです。嫌いな科目を一生懸命頑張ったところで、簡単に成績が上がるものでもない。それなら、好きな科目を勉強した方がよい。将来社会人になったとき、全てが学校の成績だけでは決まらないと思うから。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

準特選 信じてるその一言で救われた

南中学校1年 増田 結名

(評) 落ち込んでいるとき、ふと掛けられた言葉。そうだ、昨日のちょっとしたトラブル。謝るべきか、ずっと悩んで昨夜から胸の霧が晴れない。その時、友人からの思いもよらぬ言葉、うれしかった。何げなく詠んでいる中に、しっかりと思いがふくらみます。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)



佳作 部活動顧問いないとさぼっちゃう

稲枝中学校1年 川口 翔太

佳作 考えたい川柳字余りだ

稲枝中学校1年 園田 天星

佳作 勉強はむずかしいけどおもしろい

河瀬中学校1年 山田 萌夏

佳作 部活してクラブも行ってくたくただ

南中学校1年 増田 仁人

佳作 テストまで本番に向け勉強だ

南中学校1年 北川 瑤

佳作 教科書を開くとやる気わいてくる

稲枝中学校1年 金丸 凜華

佳作 男子たちテスト終わればか騒ぎ

稲枝中学校1年 森 浩太

佳作 にじがでた今日はいいことあるのかな

南中学校1年 藤堂 楓花

佳作 さびしいなクリスマスにはぼく一人

南中学校1年 寺村 光陽



入選 がんばって机向かうが結果出ず

稲枝中学校1年 伊丹 充琉

入選 部活中顧問いないと気がゆるむ

稲枝中学校1年 陣野 星光

入選 さんくみは個性ゆたかでさわがしい

稲枝中学校1年 寺井 茉央

入選 川柳を書けと言われて書いていただけ

稲枝中学校1年 山内 菜月

入選 テスト期間勉強の末良い結果

鳥居本中学校1年 山本 志華

入選 一球に勝利の気持ち込めて打つ

南中学校1年 安田 千幸

入選 悔いのない演技をしたら涙出る

南中学校1年 吉岡 祐樹

入選 大会にむけて練習めざせいち

南中学校1年 鬼頭 朋花

入選 家のドア今日は開けるの怖すぎる

南中学校1年 田原 涼羽

入選 親たちにテスト見せたら怒られる

南中学校1年 北村 颯大

入選 テスト勉強時間配分大切だ

南中学校1年 筒居 凧羽

入選 雨の中頑張ってる部活動

稲枝中学校1年 前田 駿介

入選 部活動敬語を使う私たち

稲枝中学校1年 門脇 知愛

入選 テスト勉強知らぬ間に夢の中

稲枝中学校1年 西村 陽菜

入選 テストいや飯が食いたい金欲しい

南中学校1年 辰巳 祥梧

【総評】

今年も、ご応募嬉しく思っております。少しずつですが、川柳の視野が開けるのを感じ取れます。頼もしい句、ユーモア溢れる句、心に残る豊かな句などがあり、一句一句丁寧に審査させていただきました。特に、中学生は、習った漢字と遣うことを、お勧めしてきました。その結果、全て平仮名で詠まれている句が、年々減少しています。喜ばしい限りです。これは、社会人になったときに、役立つものです。また、昨年もすべておきましたが、五七五で詠まれている句は、リズムが悪く残念な結果を招くことになります。もう一度、自分自身を見つめ直してください。

日記や標語を思わせるような句、言葉を、並べるのではなく、思いを川柳の言葉で挑戦することを望んでおります。来年度は、今年度以上に深く思いを届けてください。上手に書こうと背伸びしないで、ありのままを、若さ溢れる個性豊かな表現力を期待して止みません。

(彦根文芸協会 須田 さゆり)

